

「地理総合(仮称)」の内容構成の考え方(検討素案)

当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等(事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など)を育むか

(現行学習指導要領においては、「地理的な見方や考え方」を提示)

地理教育に求められる今日的要請への対応 (例: GIS、ESD、グローバル化、防災等)

「歴史総合(仮称)」との関係 (グローバルな時・空間認識の育成, 地理歴史科としてのまとめ)

高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計(高大接続の観点を含む)

小・中学校社会科(地理的分野)の学習との関係

その他, 適切な指導がなされるための要件(周知・広報、研修等)

高等学校 地理科目の今後の在り方について（検討素案）

現行地理A科目

課題

資質・能力

新科目のイメージ

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

①地理は選択必修で、選択者も世界史、日本史に比べて少ないことから、最低限の地理的技能をもたず高校を卒業する者が多い。

地球環境の危機や防災に関する教育の必要性、地理的思考力や地理情報システム(GIS)などを活用できるスキルの育成等が重要であるとの指摘。

観察や調査・見学、体験を取り入れた授業等が十分に行われていない。

地理的な技能
「実践的な社会的スキルとしてのGIS活用」

地理的知識と地理的理解
「地球規模(グローバル)の自然システム、社会・経済システムの知識と理解」

新科目を通じて育成する資質・能力

地理的な見方や考え方
「空間概念を捉える力」

態度と価値観
「地域、国家的及び国際的な課題解決を模索する献身的努力」

(「ルツェルン宣言における『持続可能な開発を実行する地理的能力』による」)

持続可能な社会づくりに必須となる地球規模の諸課題や、地域課題を解決する力を育む科目「地理総合」(仮称)

地図や地理情報システムなどの汎用的な地理的技能の育成

位置と分布、場所、地域などの概念を捉える地理的な見方や考え方の育成

グローバルな視点からの地域理解と課題解決的な学習の展開

持続可能な社会づくりに関わる資質・能力を育み、以降の地理学習等の基盤を形成

< 参考 >

- ・ 中学校の地理的分野において充実した地誌学習により獲得した知識等を活用し、国内外の諸課題等を主題的に扱う。
- ・ 本科目履修後の地理歴史科の科目や他教科において活用できる、GISをはじめとする地理的な技能や、世界のグローバル化、持続可能な社会づくりといった考え方を身に付けさせる。

【参考】 現行学習指導要領解説に示された「地理的な見方や考え方」

どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、地理的事象として見いだすこと。

また、そうした地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性がみられるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意してとらえること。

そうした地理的事象がなぜそこでそのようにみられるのか、また、なぜそのように分布したり移り変わったりするのか、地理的事象やその空間的な配置、秩序などを成り立たせている背景や要因を、地域という枠組みの中で、地域の環境条件や他地域との結び付きなどと人間の営みとのかかわりに着目して追究し、とらえること。

そうした地理的事象は、そこでしかみられないのか、他の地域にもみられるのか、諸地域を比較し関連付けて、地域的特色を一般的共通性と地方的特殊性の視点から追究し、とらえること。

そうした地理的事象がみられるところは、どのようなより大きな地域に属し含まれているのか、逆にどのようなより小さな地域から構成されているのか、大小様々な地域が部分と全体とを構成する関係で重層的になっていることを踏まえて地域的特色をとらえ、考えること。

そのような地理的事象はその地域でいつごろからみられたのか、これから先もみられるのか、地域の変容をとらえ、地域の課題や将来像について考えること。

【参考】 地理教育国際憲章で示された「地理学研究の中心的概念」

- ・ 1992年に、組織内の地理教育委員会（CGE）で起草され、国際地理学連合（IGU）として制定された地理教育振興のためのガイドライン。
- ・ この中で、地理学研究の中心的概念を「位置と分布」「場所」「人間と自然環境との相互依存関係」「空間的相互依存作用」「地域」と規定。